

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業 11
主査名	金 利昭 ・ 茨城大学工学部 教授	
研究テーマ	自転車の交通安全教育の新潮流	

研究の目的：

本研究では、自転車交通安全教育を教育的・社会的見地から捉え直し、新しい自転車交通安全教育のあり方と方法を提言することを目指して以下3点を目的とする。①新しい自転車交通安全教育の（国・地方）ガイドライン、カリキュラム（達成目標、評価方法）、実践活動の事例を収集する。②欧米の自転車交通安全教育の方法と教材を収集し、有用な知見を整理する。③自転車交通安全教育を教育的・社会的見地から捉え直し、新しい位置づけとあり方及び新しい方法を提言する。

研究の経過（4月～9月）：

これまでに研究会を二回開催した。第一回は、メンバーの吉田長裕から、「国内外で進むこどもの自転車交通・安全教育の取り組み」と題して、我が国における安全教育の現状、欧州（イギリス、フランス、デンマーク、オランダ）との制度比較が報告された。第二回は、ゲストにより京都府美山町で開催されている「ヨーロッパ（デンマーク）発の自転車教室～ウィーラースクールジャパン～」の活動が報告された。この他、デンマークやオランダの子供の自転車教育についての講演会に参加して情報収集を行っている。また、つくば市で行われている子供の自転車教室に参加して、ホンダ製自転車シミュレータや様々な体験を通して楽しみながら交通安全（止まって左右後ろを確認）を学ぶ様子を調査している。日本とイギリスでは、小学校での自転車教育は義務化されていないが、フランス、デンマーク、オランダでは義務化されている。特にフランスでは市民的能力（社会リスク対応）を育成するものとして位置づけられている点が興味深い。また、デンマークには楽しみながら学べる「自転車ゲーム」があること、自転車運転技術を重視していること、自転車文化を創造することを国策とし、あらゆる場面で自転車を取り上げていることが注目される。

下期へ向けて（課題等）：

国内の自転車教育の先進事例を収集するとともに、これからの我が国の自転車教育のあり方を提案したい。

研究メンバー（敬称略）：

金利昭（主査・茨城大学）鹿島茂（中央大学）兵藤哲朗（東京海洋大学）谷下雅義（中央大学）大森宜暁（宇都宮大学）石田眞二（北海道科学大学）荻津修（荻津技術士事務所）山田晴利（東京大学空間情報科学研究センター）吉田長裕（大阪市立大学）